



校訓「だから、何事でも人々からしてほしいと望むことは、人々にもそのとおりにせよ。」(口語訳聖書)

「愛すること」

学校長 平田 理(ひらたまこと)

「愛」とはなんでしょうか。有史以来、人が文学、哲学、宗教、道徳などを通して答えを求め続けている、究極的質問の一つですが、明確に応えられる人も書籍もなかなか存在しません。しかし、人が生きていく上で必要不可欠な要素です。聖書は「**神様が、愛そのものである**」(ヨハネの手紙Ⅰ 4章8節)と言います。その「愛」とは、見返りを求めずに無償で相手に尽くし、忍耐、謙遜、信仰を伴うと示しています。つまり、聖書で用いられる「愛」は、私たちが日常的に使っている家族愛、友愛、同胞愛などとはやや異なり、「究極の無償の愛(アガペーの愛)」を意味します。果たして、私たちはそれが大切だと知りつつも、「アガペーの愛」をいただけるのでしょうか。

敬虔なユダヤ教家庭で育った社会思想家 エーリッヒ・フロム (Erich Seligmann Fromm 1900- 1980) は名著『愛するということ(1956)』の中で、愛の5つの要素を挙げています。

- 1、あたえる:「自分のなかに備えられ、与えられたものを与えること」授与
- 2、きづかう:「愛する者の生命と成長を積極的に気にかけること」配慮
- 3、になう:「誰かの必要を満たす責任を持つこと」責任
- 4、うやまう:「尊敬とはその人が唯一無二の存在であることを認めること」尊敬
- 5、しる:「己への関心を越えて、その人をありのままに受け容れ、知ること」受容



フロムは、愛を体験するためには、愛を深く学び、愛するための技術を習得する必要があると説きました。「愛すること」は自然に湧き上がる感情ではなく、繰り返し学び、練習が必要だと言うのです。縄跳びを上手に跳び、一輪車や自転車を巧みに操れるようになるのと同様に、その「ワザ」や「コツ」が身に着くことが大切なのです。

しかし、一方で、愛することや愛されていると実感することは、自分の気持ちや思いによって決まるものではなく、相手の感じ方に左右され、非常に不確実で、不安定な感覚です。ですから、現実的には、これでいいのだろうか、伝わっているのだろうか、と心配や不安を抱きながら練習し、確認するのです。自分の期待値や希望に近づけることが「愛する」ことだと勘違いすると、愛を装った「拘束的な感情」となり、多くの場合、他者には迷惑で、有害でさえあります。

誰かを、そのままの状態、無条件で愛し、誰かの幸せを心から喜び合えるようになるのは、フロムが説くように、愛することの「反復練習」で得られる神様からの賜物なのかも知れません。

2018年度の学校年間目標を『心を込めて愛し合う子ども』としました。それは、「相手を大切にし、親切にする」練習を通して、愛することと愛されることを一人ひとりが体験し、思いと行為を近づける「態度」を養いたいと考えるからです。

聖書には、「わたしの目にあなたは値高く、貴く、わたしはあなたを愛し」と、神様の普遍の愛が記されています。(イザヤ書43章4節)



校内行事報告

入学式

今年度は記念すべき第70回の入学式でした。
たくさんの新しい仲間を迎えました。



春の遠足

恒例の新入生歓迎の遠足です。天候にも恵まれ、1日野外で楽しい交わりの時を持ちました。



運動会

恵まれた天候の下で、児童も保護者も一生懸命がんばりました。



消防の絵写生会

関町出張所の消防・救急隊員の方々と、実働している消防車・救急車を前に、1、2年生は一生懸命観察して、大きく力強い消防の絵を描きました。



修学旅行

今年も6年生は3泊4日の沖縄修学旅行に行きました。沖縄の文化・生活に触れると共に、平和についても旅行に先立ち勉強し、現地の方からもお話を聞いたり、身をもって体験学習をすることができました。

また、沖縄三育小学校や、同時期に沖縄に行っている横浜・光風台の児童とも交流しました。



祈 禱 週

今回は、小金井教会の久保司先生をお迎えし、「ごめんなさいって言えるかな！」と題して、神さまの前でも周りのお友達に対しても、素直に謝れる心を持つ大切さをお話いただきました。



いもの苗植え



校長先生のご指導のもと、1、2年生が紅あずまの苗を植えました。秋にはたくさんの収穫ができますように。

交通安全教室

石神井警察署のご協力のもと、1年生が登下校時の注意点を学び、横断歩道を渡る練習をしました。日常に生かされ安全な学校生活を送ってほしいです。



4月から始まった今学期もお陰さまで無事に終え、7月21日～8月26日の間夏期休暇となります。暑い夏の期間、皆さまも気をつけてお過ごしください。また来学期もよろしくお願いいたします。